



高田 征三
ふか 深

財源は有効に、利は元もとにあり

「最小の経費で最大の効果を」

質

近年、大型事業では低入札価格での契約が目につき、本年度には消防署をはじめ、新庁舎など特に目を引くものがある。

答 市長

庁舎関係の入札結果は、消防署新築予算4億5000万円、新庁舎建設予算28億円、計32億5000万円の予算額に対し、その契約額は25億7783万9371円と差額は6億7216万6299円の

入札残です。

本年度中において契約済みの建設工事は163件、総額での設計額は51億2921万6016円、その契約額は43億2687万308円、落札率84・4%で差額は8億234万5708円であり、これに委託費での3件の低入札の差額合計2億2641万5千円を加えますと、総額は10億2876万708円の入札残となります。

質

低入札での契約で、市が求める高品質の成果品が得られるのか。

答 市長

価格のみの競争から、価格以外の多様な要素も考慮する「総合評価落札方式」を採用したため、高品質の成果品確保は可能であると考えています。

質

徹底した談合防止策をとり、競争性を求めた入札制度へと改革はできないのか。

質

大災害の教訓から、地元建設業者の存在価値と、地域を守る建設業者の育成は、どう捉えているのか。

答 市長

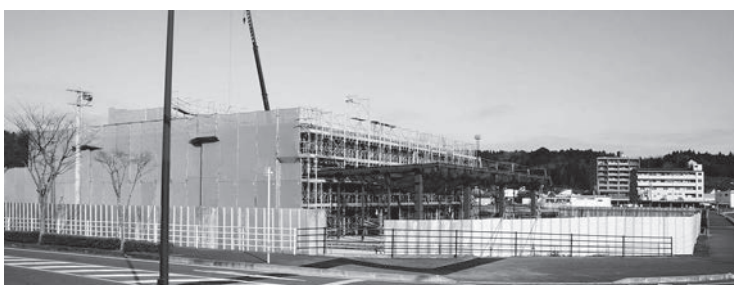
建設工事で設計金額が1億円未満は最低制限価格を、1億円以上は低入札調査基準価格を設定し、工事の品質を確保しながら、今後とも契約業務の合理化を図り、必要な調査研究を行い、豊後大野市建設工事等競争入札委員会（注）で、より公正な入札制度に向けて協議してまいります。

答 市長

市内のほとんどの建設業者と、災害時などにおける緊急災害作業についての協定を締結し、工事の発注は市内業者を基本としています。



建設中の新三重中学校校舎



新消防庁舎

悪臭問題について

～改善・解決に向けて
最大限の支援と指導～



おのやすひで
小野泰秀

質

三重町東部地域の三重原区一帯の悪臭問題を、どのように認識・把握しているのか。

答
市長

現在、住民・事業者・行政の連携を図るため、悪臭防止協定の締結や三重原地域環境対策協議会の開催、代表者会議を毎月実施しています。

質

悪臭の発生源と思われる業者に対し、どのような指導や対策を講じているのか。

答
市長

養豚業者では、徹底した場内洗浄、消臭効果のある生菌剤やバイムフード「ぼかし」の散布を積極的に行い、また、産業廃棄物中間処理業者では、微生物活性剤「マイエンザ」を自社で製造し散布を行っており、一定の効果も出てきています。行政では、臭気モニタリング調査を三重原自治会へ依頼しており、臭気状況を確認検証しているところです。

質

市が考えている今後の解決策は。

答
市長

残念ながら、今のところ臭気が全く無くなるような画期的な方法が無いため、今できる限りの対策や対応を一つ一つ実施して、臭気の軽減を図ってまいります。



三重原環境対策協議会代表者会議

質

現在、新たな墓地を求めようとしても条例や規則などにより、指定された墓地以外での建設は違法となるため、墓の建設は難しい状況にあります。

公営墓地について

～住民の同意が難しい～

答
生活環境部長

市は苦情処理や取り締まりをするだけでなく、市民のために将来に向け、公営の墓地や墓地公園などの建設はできないのか。

市が、新たに公営の墓地を建設し、経営を行うことは市の財政状況などを考えると、大変厳しい状況にあります。



下自在集合墓地公園(緒方町)